







政策分野15 観光

目指す姿	
歴史や文化に誇りを持ち、地域の魅力を楽しみ、伝えながら、おもてなしの心で来訪者を迎えるまち	
施策	
施策番号	名称 関連するSDGs17のゴール
施策の内容	
施策1	地域資源を活用した観光振興   <p>鶴ヶ城、飯盛山をはじめとした歴史的・文化的資源や猪苗代湖に代表される自然資源、さらには、温泉地やまちなか観光などの様々な地域資源を活用しながら、「会津まつり」に代表されるまつりやイベントなど、あらゆる機会を捉えて観光を振興し、地域の活性化に結び付けていきます。</p>
施策2	誘客宣伝の推進と受入体制の整備   <p>テレビやラジオ、ホームページやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など、様々な媒体を活用した観光情報の発信を行うとともにキャラバンや物産展など関係機関等と連携した効果的なプロモーションの実施、フィルムコミッションの推進による本市知名度の向上、さらには、教育旅行やコンベンション誘致などの各種施策の展開により、誘客宣伝を推進します。また、観光案内機能等の充実を図りながら、地域全体でおもてなしの向上を図るために市民参加、市民意識の高揚に努め、その推進を担う組織の強化に取り組みます。</p>
施策3	広域観光・インバウンドの推進   <p>会津17市町村が一体となって「仏都会津」を主要テーマとした広域観光を推進し、周遊型の観光誘客を図ります。 また、外国人の誘客を推進するため、海外向け観光プロモーションの展開や、ICTを活用した情報発信、多言語表記等により外国人受入体制の充実を図ります。特に、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とし、これらの取組を推進します。</p>

1 政策分野の進捗状況

重要業績評価指標の達成状況						
	指標名			単位	説明又は計算式	
1	観光客入込数（年間）			千人	観光客の年間入込数（1～12月）	
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	最終目標	検証
	目標	3,909	3,931	3,954	4,000	新型コロナウイルス感染症の影響により、目標に対し37.3%となった。
	実績	1,460	-	-		
2	市内宿泊施設の外国人宿泊者数（年間）					
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	最終目標	検証
	目標	28,600	30,700	32,700	36,900	新型コロナウイルス感染症の影響により、目標に対し7.2%となった。
	実績	2,066	-	-		
3	教育旅行県外来訪校数（年間）					
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	最終目標	検証
	目標	786	798	808	820	宮城県、新潟県などからの来訪が、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻り、目標に対し115.5%となった。
	実績	908	-	-		

2 施策の評価

施策1	地域資源を活用した観光振興
<p>今年度の重点方針(方向性)</p>	<p>鶴ヶ城、飯盛山をはじめとした史跡名勝などの歴史的・文化的資源や猪苗代湖に代表される自然資源、さらには温泉地やまちなか観光などの様々な地域資源を活用しながら、「会津まつり」に代表されるまつりやイベントなど、あらゆる機会を捉え、滞在型観光を推進することにより市内での観光消費額の向上につなげ、ポストコロナにおいて、観光業の再始動を図る。</p>
<p>取組状況</p>	<p>【1】歴史的文化的な資源・資産の活用 ・史跡若松城跡総合整備計画等に沿った整備・改修や、天守閣内の展示リニューアル等を推進するなど、鶴ヶ城の魅力や価値の向上を図るとともに、歴史的・文化的資源を観光資源として活用し、鶴ヶ城を基点とした市内の周遊や、市内での滞在型観光推進に寄与してきた。 ・特に、令和4年度は、光のアートプロジェクトやポート体験事業などの誘客促進事業を実施したことにより、天守閣入場者数は337千人となり、長寿命化工事に伴う閉館期間があった中で令和3年度の275千人から大きく伸ばすなど、本市全体の観光入込の回復に大きく寄与した。</p> <p>【2】自然資源等の活用 ・崎川浜を遊泳場として開設するとともに、来訪者の利便性の向上を図るため湊四浜に便益施設を整備するなど、安全性の確保や環境美化、適切な維持管理に努め、本市を代表する自然資源を観光資源として活用し、観光誘客を図ってきた。 ・これまでの環境整備や、安全性・湖水浴の魅力などの情報発信により、来場者数は、令和3年度の約15,000人から令和4年度は約20,000人となるなど、旅行動態の変化に対応し、若年層を中心とした新たな観光客の獲得に寄与してきた。</p> <p>【3】温泉地域の活性化 ・温泉街の魅力向上や観光誘客、震災やコロナ禍からの回復に向けた取組を支援するなど、滞在型観光推進の中心となる温泉地域の活性化を図ってきた。 ・令和3年度に、市が中心となり、温泉関係者とともに「温泉地域活性化検討会」を設置し、温泉街の目指すべき方向性や姿などをまとめた「温泉景観創造ビジョン」を策定。令和4年度には同ビジョンのアクションプランを策定したことで、温泉関係者の機運も高まり、官民連携のもと温泉街の修景対策等の魅力向上への取組が進んでいる。</p> <p>【4】賑わいの創出 ・会津まつり協会への支援を通して、会津まつりをはじめとするまつりやイベント等によるまちなかの賑わいの創出に努めてきた。 ・特に、令和4年度の会津まつりは、感染症の感染拡大の影響を受けながらも、従来通りの開催を目指し、藩公行列のコースを工夫するなど、まつり全体で様々な対策を講じて開催したところ、令和3年度を大きく上回る124,500人の来場があり、本市全体の観光入込数の回復に寄与した。 ・「かわひがし皆鶴姫まつり」については、平成19年度に、合併前からの地域のまつりを「皆鶴まつり」として一本化。平成22年度には会場を「広田西公園」、名称も「かわひがし皆鶴まつり」に変更。 ・皆鶴姫にまつわるまつりとして、平成30年度に「かわひがし皆鶴姫まつり」として名称変更。 ・令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染防止のため皆鶴姫墓前祭のみ実施。 ・令和4年度は、皆鶴姫墓前祭・花火打ち上げのみとし、ライブ配信を実施。 ・「ホテル祭り」については、会津若松の知名度を活用し、北会津地域の独自性「ホテルの里北会津」をPRした。 ・住民協賛金、企業協賛金等のしくみを立ち上げた、また、ホテル市の出店料の見直しなど、自主財源の確保に努めた。 ・住民参加を通して地域の活性化を図りながら、実行委員会が地域に根ざした組織となるよう区長会やJA地域団体の加入を図った。 ・令和5年度は、地元中学生による祭り会場の清掃ボランティアを実施するなど、住民協働の取組を進めた。</p>

【1】歴史的・文化的な資源・資産の活用

・鶴ヶ城をはじめとした歴史的文化的資源の保全・保存と磨き上げに取り組み、これらを観光資源として有効活用し、情報発信に努めながら、観光誘客を図っていく。
・特に、鶴ヶ城においては、史跡内にある歴史的文化的資源を十分に活用できていないことが課題であることから、令和5年4月の天守閣展示リニューアルオープンを契機に、その効果を活かした誘客を促進するとともに、本市観光のシンボルである鶴ヶ城を拠点として保全・整備し、観光資源として有効活用していくことにより、旅の動機付けを図り、本市全体の観光入込と観光消費額の向上に寄与していく。

【2】自然資源等の活用

・湊四浜については、今後も地元住民の協力を得て、連携を密にしながら、便益施設や浜の清掃などに取り組み、環境の保全とともに観光資源として有効活用していく。
・特に、ポストコロナにおいて屋外でのアクティビティニーズが高まっており、本市にはそのようなスポットが少ないことが課題であることから、本市を代表する自然資源である湊四浜を新たな魅力ある観光拠点として、本市への旅の目的となるよう整備し、若年層を中心に新たな客層の獲得を図っていく。
・推進にあたっては、民間事業者による営業手法を用いて持続・発展させていくことが効果的であることから、新たに推進体制を整えることや補助金による支援制度を創設することなどを検討し、民間活力を活用しながら新たな観光拠点として整備していく。
・また、湊四浜の中心である崎川浜の防風林内においては枯れ枝が多く、事故の危険性もあることから、あわせて、早急な整備を進めていく。

【3】温泉地域の活性化

・温泉地域の活性化に向け、魅力向上を図っていく必要があることから、今後も温泉街が全体で取り組むイベント等の開催や環境整備などについて支援していく。特に、ポストコロナにおける旅行動態の変化への対応や、人口減少等に伴う人手不足の解消に向け、観光産業の生産性を向上させる取組が必要であることから、温泉街全体で取り組む閑散期における誘客対策等を支援していく。
・また、策定されたアクションプランの推進のためには、空き家等にかかる権利関係の整理や、廃屋撤去・インフラ整備等にかかる財源の確保等に課題があることから、これらの解決に向け、官民の連携を強化する必要があるため、これまでの推進体制（温泉地域活性化検討会）についても見直していく。

【4】賑わいの創出

・会津まつり協会や会津若松観光ビューロー等の関係団体と連携強化しながら、「会津まつり」や「会津絵ろうそくまつり」などの各種イベントの魅力向上を図る。
・特に、会津まつりや各地区で行われているお日市などのまつりについては、先人たちから受け継がれてきた大切な資源であり、観光誘客にもつながるが、現状、十分な活用が図れていないことから、その支援のあり方を検討する。
・各地区のまつりは、年中行事であることから、閑散期対策として新たな祭りを創出することも含め、賑わいづくりを行っていく。
・「かわひがし皆鶴姫まつり」については、河東地域の「皆鶴姫」伝説を継承する催しであり、多くの市民が参加し賑わいづくりやふるさとの良さを再認識できる事業として地域に定着している。あいづ商工会を事務局とする実行委員会において適宜内容の見直しを行っており、市からも様々な助言を行いながら、継続実施に向けて支援を行っていく。
・河東地域ふるさと創生基金払底により、本補助金へは令和6年度までの充当となっていることから、事業継続に向け、今後の財源について検討していく。
・「広田駅前ライトアップ・イルミネーション」は地域の賑わいを創出する冬の恒例イベントとして、また、期間中に併せて開催している「かわひがし八日市」は正月の縁起物を地元で手軽に購入できる「市」として、それぞれ地元で定着していることから、地域活性化のため今後も継続して支援をしていく。
・地域の活性化を図るため、住民協働と事業内容見直しを更に進めながら、事業内容の更なる充実に向けて取り組んでいく必要がある。
・地域の自然資源であるホテルをPRすることで、水環境の美化・保全に対する意識高揚を図る。
・イベント等に、地場産品を景品として提供するなど、「ホテルの里北会津」の魅力を発信、住民との協働の取組を更に進める。
・今後も円滑な事業継続のため、協賛金等、さらなる自主財源の確保を検討する。

施策2	誘客宣伝の推進と受入体制の整備
今年度の重点方針(方向性)	<p>観光地域づくり法人(DMO)である会津若松観光ビューローと連携しながら、様々な媒体を活用した観光情報の発信をはじめ、JR東日本重点販売事業を活用したプロモーションの実施やフィルムコミッション事業を通じた本市の魅力発信など、効果的な誘客宣伝を推進し、ポストコロナにおける観光再始動を図る。</p> <p>また、観光需要の平準化を図るため教育旅行やワーケーションなどの滞在型観光を推進するとともに、地域全体でおもてなしの向上に努め、受入体制環境の強化に取り組む。</p>
取組状況	<p>【1】観光情報発信と誘客活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会津若松観光ビューローと連携し、大手ウェブ検索サイト等のビッグデータや、本市観光ポータルサイトの閲覧解析等の各種データの収集分析に基づいた情報を効果的に発信したところ、令和4年度のポータルサイト閲覧数は、前年度から約20万件増加したことから効果的なプロモーションが図られ、本市の観光入込の早期回復に寄与した。 ・また、令和4年度は、ポストコロナに向けた着地型旅行商品を約30本造成した。 ・令和5年度は、閑散期に向けた商品造成に注力することで、観光需要の平準化を図った。 <p>【2】教育旅行誘致の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の誘致は、観光需要の平準化につながることから、各都道府県エリアの学校長会へ継続的に参加し、本市の新たな取組や、充実した受入体制をPRするなど、再来訪に向けた活動を行った。また、旅行エージェンツ等に対しても、本市の優位性を理解してもらうために積極的な誘致活動を行ってきたところ、震災後100校まで減少した県外来訪校数が、令和4年度には908校となり、過去最多を更新した。 <p>【3】コンベンションの誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会津若松観光ビューローへの支援を通して各種会議などの誘致を図るとともに、ワーケーションについては、令和4年度に、地域の関係者とともに「会津若松市ワーケーション推進協議会」を設立し、各種調査やモニターツアーなどを実施。勉強会等を重ね、ターゲットの明確化や推進するワーケーションの方針を定めるなど、計画的な推進が図られている。令和5年度には、AICT入居企業が、本市において5日間18名による研修プログラムを実施するなど、本事業による効果が現れてきている。 <p>【4】観光案内機能と便益施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会津若松観光ビューローへの支援を通じ、観光案内所において、ウェブ検索データ等に基づいたパンフレットの展開や、人流データに基づいた人気スポットの紹介などを実施したことで、令和4年度のまち歩きスイーツ事業の利用者が、前年比約150%となるなど、まちなか観光が推進された。さらに、観光案内所におけるレンタル自転車や手荷物を宿まで運搬するサービスの実施により、令和4年度の案内所の利用者数は、前年度から約5,900人増加しており、まちなか周遊促進による滞在型観光に貢献することができた。 ・来訪者の多い観光地周辺に駐車場やトイレなどの便益施設等を整備し、来訪者の満足度を高めてきたところ、年々苦情等が減少している。 <p>【5】観光客受入に関わる人材の育成と市民意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市民を対象とした観光ガイド講座を開催し、市民意識の高揚を図るとともに、会津若松観光ビューローと連携し、ボランティアガイドのスキルアップを図った。 ・また、令和4年度の観光ガイド講座では、歴史や文化の知識だけでなく、最新の観光情報なども交えた講座内容とするなど、事業内容を充実させたことにより、一般市民だけでなく観光業に携わる方も多く参加するなど、幅広い市民の方々の参加につながった。 <p>【6】観光推進組織との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市は、本市観光地づくりの舵取り役である会津若松観光ビューローが、本市観光振興計画に基づき、関係事業者等と合意形成を図りながら実施する各種事業について支援している。

課題認識と
今後の方針
・改善点

【1】観光情報発信と誘客活動の推進

・ポストコロナにおいて、旅の形態が団体型から個人型へシフトするに伴い、旅の目的も多様化するなど、観光動態が大きく変化したことから、観光情報の発信については、各種データの収集分析をもとに、その内容や発信方法を見直す必要がある。一方、受け入れる側においても、人手不足が深刻化しており、現在の体制の中で生産性を高めるためには、観光入込の平準化が必要であることから、今後も閑散期対策として有効なインバウンド誘客や教育旅行誘致、ワーケーション事業に取り組んでいく。

【2】教育旅行誘致の推進

・感染症拡大前から本市へ来訪していた宮城県や新潟県の来訪校からは、歴史学習だけでなく新たな学習コンテンツを求める声があったことや、感染症拡大後に本市へ行き先を変更した栃木県、茨城県の来訪校が、感染症拡大前の行き先に戻す動きがあることから、新たな体験型コンテンツの創出や既存コンテンツの磨き上げによる多様な学びの場を提供するとともに、さらに積極的な誘致活動を実施する。

【3】コンベンションの誘致

・本市は、受入施設の規模や数からも誘致できる大会等が限定的ではあるが、観光入込の平準化につながる取組であることから、引き続き、誘致していく。
・また、閑散期における観光需要の獲得を目指し推進するワーケーションについては、ターゲットであるAiCTコンソーシアムやANP等に対する訴求力のあるプロモーションや、本事業を自走化させる推進体制の整備が必要であることから、協議会において、地域の関係者とともに、実施したモデル事業の検証をはじめ、実績を重ねながら、ワーケーション実例を活用した効果的なプロモーションや受入体制の整備を進めていく。

【4】観光案内機能と便益施設の充実

・本市を訪れるインバウンドに対しては、情報の発信や受入体制が十分とは言えず、外国人の訪問地が限定的で観光消費額の伸びが少ないことから、まちなか観光を活性化させる機能として、観光案内所へのガイドの設置に取り組む。
・便益施設については、設置から年数が経過し、劣化が見られる施設もあることから、順次更新等を行いながら、今後も来訪者へのサービスの提供を継続していく。

【5】観光客受入に関わる人材の育成と市民意識の高揚

・観光動態が変化し、旅の目的が、今までの物見遊山的な観光から行き先での交流や体験になる中で、旅先での出会いや地元の人との会話が満足度を向上させることから、市民一人ひとりが的確な観光案内のできるよう、さらなる環境づくりと温かく迎え入れるおもてなしの意識の醸成を図る。

【6】観光推進組織との連携

・ポストコロナにおいて観光動態は大きく変化したが、受入側でも人手不足が深刻化していることから、閑散期対策を講じ、生産性と満足度を向上させる取組が重要となっている。こうした現状を踏まえ見直しを行った本市観光振興計画に基づき各種事業を実施する会津若松観光ビューローを支援し、関係事業者等と連携しながら教育旅行の誘致、富裕層を中心としたインバウンドの拡大、特に、冬季の滞在型観光を推進していく。

施策3	広域観光・インバウンドの推進
今年度の重点方針(方向性)	<p>会津17市町村が一体となって、「極上の会津」を主要テーマとした広域観光に取り組み、宿泊や体験など、域内の魅力を有機的に結びつけることによる滞在型観光を推進することで、観光業の再始動を図る。</p> <p>また、ポストコロナを見据えた外国人の誘客を推進するため、各ターゲット国やターゲット層の嗜好に併せた観光プロモーションの展開や、情報発信等により、戦略的なインバウンドの推進を図る。</p>
取組状況	<p>【1】広域観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「極上の会津プロジェクト協議会」を中心に、会津17市町村が有する魅力ある観光資源を組み合わせたモデルルートの提案や一体的なプロモーションによる広域観光を促進してきた。特に、日本遺産に認定された「会津の三十三観音巡り」などテーマ性を持った周遊型観光の促進に取り組んできた。 ・日本遺産カード事業などの取組より、日本遺産を訪問する観光客が増加し、周遊型観光の促進に寄与してきた。(カードの配布実績：令和3年度：13,299枚、令和4年度：13,981枚(+682)、累計配布枚数：約63,300枚) ・コロナ禍の下、変化した観光動態に対応するため、早朝や夜間の新たなコンテンツを13本開発するなど、新たな旅行スタイルを提案することで、多様な受入体制の整備が進んだ。 ・国内外からの広範囲な誘客促進を図るため、新潟市や佐渡市など、本市とゆかりのある自治体と連携協定等を締結、お互いのコンテンツを組み合わせた周遊型観光の推進事業を実施、地域内の観光・交通事業者等の連携強化や機運醸成につながった。 ・特に佐渡市とは、令和4年3月に広域観光推進協議会を新たに設立し、佐渡金山の世界遺産登録を見据え、両地域を巡る高付加価値モデルルートを3本造成し、共同ポータルサイトを立ち上げるなど、国内外からの誘客促進に向けた取組を開始した。 <p>【2】インバウンドの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイのレップ事業においては、主に富裕層を顧客に持つ300社以上の現地旅行代理店や企業等へ、本市の観光情報をプロモーションを実施するとともに、地域の観光業者等へタイ国での生活習慣等をテーマとした講習会を開催するなど、ポストコロナを見越した誘客促進と受入体制の強化を促進した。 ・入国緩和直後の令和4年7月には、全国のインバウンド客の5%が本市を来訪するなど、速やかな回復につながった。 ・台湾に対しては、新潟市や佐渡市と連携し、インフルエンサー等を活用したモデルルートの造成やSNS等による情報発信などにより、ポストコロナに向けた体制整備が図られた。 ・海外への情報発信については、多言語観光サイト「SAMURAI CITY AIZU」の掲載情報の充実や、SNSなどによる情報拡散等により、本市の魅力を広くターゲット層に訴求することができた。(PV数：令和3年度91,862、令和4年度140,072)

【1】広域観光の推進

・会津17市町村が一体となって、地域内の魅力ある観光資源の組み合わせや一体的なプロモーションによる広域観光を促進していく。
・日本遺産については、来訪者が増加しているものの高齢者層が中心であることから、令和6年の日本遺産サミットの本市開催を契機に、成長率が高く消費意欲が旺盛な20～30代女性層をメインターゲットとし、構成文化財と地域の魅力あるコンテンツを組み合わせたテーマ性のある周遊プランを造成し、滞在型観光を推進していく。
・あわせて、日本遺産ガイドやインバウンドガイドを含む会津地域の観光ガイドを活用し、満足度の高いサービス提供体制を構築することで、観光消費額の向上に取り組み、滞在型観光の促進を図っていく。
・コロナ禍を経て、旅行に対する目的が多様化する中、広域連携の優位性を活かして、各地域でしか体験できない行事や風習等をコンテンツとして組み合わせた新たな周遊型観光商品の造成や、高価格帯旅行商品のOTA販売の促進などにより、滞在型観光の推進や観光消費額の向上を図っていく。
・本市とのゆかりを持つ新潟市や佐渡市などとの連携を強化し、双方が持つ強みや共通するコンテンツを組み合わせ、新たな魅力を持つ周遊型旅行商品の造成を図っていくことで、持続可能な観光振興を推進していく。
・特に、新潟市とは関西方面やインバウンドなど、共通ターゲットの獲得に向けた広域的な誘客事業をさらに進めるため、交流宣言を連携協定を発展させるとともに広域観光推進協議会を立ち上げる。

【2】インバウンドの推進

・タイ、台湾、欧米をターゲット国とし、食や温泉など関心の高いコンテンツを磨き上げるとともに、効果的なプロモーションと受入体制の向上を図ることなどでインバウンドを推進していく。
・令和4年10月の水際対策の緩和以降、インバウンドは急速に回復していることから、本市のブランド力や広域連携の強みを活かして他地域との誘客競争に勝ち抜く必要がある。
・本市の持つ優位性（サムライ・茶道文化や絶景、冬季コンテンツなど）を活かし、ターゲット国（台湾・タイ・欧米）ごとの嗜好に応じた戦略的なプロモーション事業を実施し、観光需要の平準化を図っていくとともに、多言語ガイドサービスの提供体制を整備し、満足度を向上させることで、観光消費額の向上を促進していく。
・佐渡市とは、令和6年の佐渡金山の世界遺産登録を見込み、これまで造成してきた高付加価値周遊型モデルコースを磨き上げ、旅行商品とすることで、観光消費額の向上に寄与していく。
・また、新潟市とは、令和7年の大阪・関西万博の開催を見据え、醸造発酵といった共通コンテンツを開発し、国内外からの広域観光誘客に向けた周遊型旅行商品の造成に取り組む。
・インバウンドの情報入手手段については、ウェブサイトが最も利用されていることから、多言語観光サイト「SAMURAI CITY AIZU」のリニューアルにより、旅マエの情報発信を強化するとともに、インバウンドの特徴である長期滞在といった旅行形態に対応するため、JNTOの調査で要望の高かった東京駅等から本市への交通アクセス情報や市内の二次交通情報等の動画で発信するなど、旅ナカにおける効果的な情報発信を行うことで、更なる訪問機会を促進していく。

3 関連する政策分野と事務事業

政策分野	事務事業名	担当部・課名
10-4	グリーンツーリズム支援事業	農政部農政課
16-2	中心市街地活性化事業	観光商工部商工課
23-1	ホテル生息地保全事業	企画政策部北会津支所まちづくり推進課

4 施策の最終評価

- ・政策分野15「観光」の推進にあたっては、「2 施策の評価」に従い取り組むこと。
- ・施策1「地域資源を活かした観光振興」については、引き続き、本市を代表する歴史的・文化的資源である鶴ヶ城を拠点としたまちなかへの誘客や、自然資源である湊四浜のアクティビティスポットとしての有効活用を図っていく。また、温泉地域の魅力向上に向けて、令和4年度に策定されたアクションプランに基づく景観の修景に取り組むとともに、会津まつりなどのイベント内容の磨き上げにより、観光誘客につなげていく。
- ・施策2「誘客宣伝の推進と受入体制の整備」については、会津若松観光ビューローと連携し、ターゲットを定めた戦略的な情報発信や誘客活動を行うとともに、インバウンド誘致やワーケーション推進、教育旅行の積極的な誘致に取り組み、観光入込の平準化を図る。
- ・施策3「広域観光・インバウンドの推進」については、令和6年度日本遺産サミットの本市開催を契機とした新たな周遊プラン造成や、新潟市・佐渡市との連携強化、多言語観光サイトのリニューアルなどにより、国内外からの持続的な誘客促進に取り組んでいく。

5 事務事業一覧

番号	ロジック モデル	重点 事業	人口減 少対策 ※	SDGs ターゲ ット	事務事業名	次年度 方針	担当部・課
施策1 地域資源を活用した観光振興							
1	◎		柱2	8	湊四浜サスティナブルツーリズム推進事業	新規	観光商工部 観光課
2	◎		柱2	8	温泉地域再生・高付加価値化事業	継続	観光商工部 観光課
3			柱2	8	会津まつり協会負担金	継続	観光商工部 観光課
4			柱2	8	史跡若松城跡総合整備事業（観光施設事業特別会計）	継続	観光商工部 観光課
5			柱2	8	観光施設指定管理運営事業（観光施設事業特別会計）	継続	観光商工部 観光課
6			柱2	8	若松城天守閣等管理運営事業（観光施設事業特別会計）	継続	観光商工部 観光課
7			柱2	8	史跡若松城跡ライトアップ事業（観光施設事業特別会計）	継続	観光商工部 観光課
8			柱2	8	鶴ヶ城体験事業（観光施設事業特別会計）	継続	観光商工部 観光課
9			柱2	8	鶴ヶ城誘客促進事業（観光施設事業特別会計）	継続	観光商工部 観光課
10			柱2	8	近世会津と南蛮文化事業	継続	観光商工部 観光課
11			柱2	8	冬季観光誘客促進事業（観光施設事業特別会計）	終了	観光商工部 観光課
12			柱2	8	温泉地域活性化推進事業	継続	観光商工部 観光課
13			柱2	8	ONSEN・ガストロノミーウォーク事業	継続	観光商工部 観光課
14			柱2	8	会津十楽inサムライシティあいづ開催事業（観光施設事業特別会計）	継続	観光商工部 観光課
15			柱2	8	湊四浜環境整備事業	継続	観光商工部 観光課
16			柱2	8	まちなか観光推進事業	継続	観光商工部 観光課
17			柱2	8	ホテル祭り実行委員会負担金	継続	北会津支所 まちづくり推進課
18			柱2	8	ふるさとイベント事業補助金	継続	企画政策部 河東支所まちづくり推進課
19			柱2	8	魅力ある町づくり推進事業補助金	継続	企画政策部 河東支所まちづくり推進課
施策2 誘客宣伝の推進と受入体制の整備							
1			柱2	8	（一財）会津若松観光ビューロー補助金	継続	観光商工部 観光課
2			柱2	8	教育旅行誘致推進事業	継続	観光商工部 観光課
3			柱2	8	市民総ガイド運動事業	継続	観光商工部 観光課
4			柱2	8	便益施設整備事業	継続	観光商工部 観光課
5			柱2	8	観光管理運営費事業	継続	観光商工部 観光課
6			柱2	8	フィルムコミッション事業	継続	観光商工部 観光課
7			柱2	8	会津若松観光ルネッサンス協議会負担金	継続	観光商工部 観光課
8			柱2	8	ワーケーション推進事業	継続	観光商工部 観光課
9			柱2	8.9	スマートシティ会津若松推進事業（観光分野）	継続	企画政策部・スマートシティ推進室
施策3 広域観光・インバウンドの推進							
1			柱2	8	極上の会津プロジェクト協議会事業	継続	観光商工部 観光課
2			柱2	8	国際観光推進事業	継続	観光商工部 観光課
3			柱2	8	会津カード運営協議会事業	継続	観光商工部 観光課
4			柱2	8	福島県観光復興推進委員会負担金	継続	観光商工部 観光課
5			柱2	8	都市間連携推進事業	継続	観光商工部 観光課
6			柱2	8	磐越西線SL運行推進事業	継続	観光商工部 観光課
7			柱2	8	日光・会津観光軸活性化推進検討会事業	継続	観光商工部 観光課
8			柱2	8	会津・置賜広域観光推進協議会事業	継続	観光商工部 観光課

※人口減少対策に資する事業を「第2期 会津若松市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」で定める4つの基本目標に分類して表記しています。

- 柱1 ICTと既存産業・資源を活用したしごとづくり
- 柱2 地域の個性を活かした新たなひとの流れの創出
- 柱3 生活の利便性を実感できる安全・安心なまちづくり
- 柱4 結婚・出産・子育て支援と教育環境の整備

施策1 地域資源を活用した観光振興							
1	事業名	湊四浜サステイナブルツーリズム推進事業				法定/自主	自主
	担当部・課	観光商工部 観光課				次年度方針	新規
	概要 (目的と内容)	<p>・ポストコロナにおいて高まっている屋外でのアクティビティニーズに対応するため、本市の自然資源である湊四浜のロケーションを活かしたサステイナブルツーリズムを推進し、湊四浜を新たな魅力ある観光拠点として整備することにより、本市への観光誘客を促進するもの。</p> <p>・湊四浜において新たに観光業に取り組もうとする事業者や、各種団体等が行う共同施設等の設置や、観光誘客イベントの開催、空き店舗や空地の利用等に対して支援する。</p>	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)		
			事業費	0	7,551		
			所要一般財源	0	7,551		
			概算人件費	0	1,498		
	これまでの取組状況 (主な取組と成果)	-					
	ロジック モデル (政策の設計図)	事業実績	短期成果	中期成果		最終成果	
		湊四浜サステイナブルツーリズム推進事業による補助金の周知、交付	事業者が施設整備やイベント造成などに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・湊四浜への観光客入込み数が増加する ・湊地域において新たな雇用や経済効果が創出される 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の活用と自然環境の保全を両立させながら、観光地としての魅力向上が図られる 	
	成果の推移 (中期成果)	項目		R4	R5	R6	R7
湊四浜への観光客入込数		21,478					
事業の検証 (課題認識/今後の方針・改善点)	<p>・ポストコロナにおいて、屋外でのアクティビティニーズが高まっているが、本市にはそのようなスポットが少ないことが課題となっていることから、本市を代表する自然資源である湊四浜のロケーションを活かし、屋外でのアクティビティが楽しめる観光スポットとして、新たな本市への旅の目的となるよう整備し、若年層を中心に新たな客層の獲得を図っていく。</p> <p>・推進にあたっては、民間事業者による営業手法を用いて持続・発展させていくことが効果的であることから、新たに推進体制を整えることや補助金による支援制度を創設することなどを検討し、民間活力を活用しながら新たな観光拠点として整備していく。</p>						
2	事業名	温泉地域再生・高付加価値化推進事業				法定/自主	自主
	担当部・課	観光商工部 観光課				次年度方針	継続
	概要 (目的と内容)	<p>目的：温泉街の魅力阻害要因である廃屋等の景観を改善することにより、滞在型観光の推進と観光消費額の拡大を図る観光振興のための拠点機能を有する温泉地域の活性化を図る。</p> <p>内容：「温泉地域景観創造ビジョンアクションプラン」に基づき、温泉地域の魅力づくりに取り組もうとする個々の事業者等に対する支援</p>	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)		
			事業費	6,000	11,000		
			所要一般財源	6,000	11,000		
			概算人件費	1,498	1,498		
	これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<p>・温泉地域の魅力向上に向けて、温泉関係者等とともに「温泉地域活性化検討会」を設置し、令和3年度において温泉街の目指すべき方向性や姿などを取りまとめた「温泉地域景観創造ビジョン」を策定した。</p> <p>・令和4年度には、同検討会において、ビジョンを具現化するためのアクションプランが策定されたことで、温泉関係者の機運も高まり、実現へ向けた民間活動が活発化している。</p>					
	ロジック モデル (政策の設計図)	事業実績	短期成果	中期成果		最終成果	
		再生・高付加価値化事業による支援の実施	事業者が空き旅館の解体や施設の改装などに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した空き旅館等が減少する ・温泉地域全体の景観が改善する 		<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地域の活性化、魅力の向上 ・土地の有効活用が進む 	
	成果の推移 (中期成果)	項目		R4	R5	R6	R7
温泉地域の観光客入込数		-					
事業の検証 (課題認識/今後の方針・改善点)	<p>・アクションプランを推進していくためには、空き家等にかかる権利関係の整理や、廃屋撤去・インフラ整備等にかかる財源の確保等に課題があることから、これらの解決に向け、官民の連携を強化するとともに、これまでの温泉地域活性化検討会についても見直すなど、推進体制を強化していく。</p>						

施策1 地域資源を活用した観光振興

事業名	会津まつり協会負担金		法定／自主	自主
担当部・課	観光商工部・観光課		次年度方針	継続
概要 (目的と内容)	会津まつりをはじめとした地域振興事業を実施する会津まつり協会へ負担金を支出することにより、先人への感謝の気持ちを育むとともに地域振興や観光誘客を図る。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
		事業費	83,097	88,000
		所要一般財源	83,097	88,000
		概算人件費	790	899
3	これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の会津まつりは、感染症の感染拡大の影響を受けながらも、従来通りの開催を目指し、藩公行列のコースを工夫するなど、まつり全体で様々な対策を講じて開催したところ、令和3年度を大きく上回る124,500人の来場があり、本市全体の観光入込数の回復に寄与した。 ・令和5年度の会津まつり藩公行列は、一部ポストコロナの環境に対応した参加募集をしたところ、想定を上回る申込があったことから、新たな魅力創出につながった。 ・お日市など地区のまつりについては、各主催者に実施内容等を聞き取り、ホームページなどで情報発信することで賑わいの創出を支援した。 		
	事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・会津まつりについては、歴史や文化的な背景等の開催意義を再認識するとともに、さらに観光誘客が図られるよう事業内容を検討する。 ・各地区のまつりについては、重要な観光資源であると認識していることから、今後の継続・発展を図るため、新たな支援のあり方を検討する。 ・本市観光の再始動を加速するためには、閑散期対策が重要であることから、これまでの事業の検証等を行い、特に冬季誘客の強化を図り観光需要の平準化に取り組む。 		
事業名	史跡若松城跡総合整備事業（観光施設事業特別会計）		法定／自主	自主
担当部・課	観光商工部・観光課		次年度方針	継続
概要 (目的と内容)	目的：史跡若松城跡総合整備計画の推進による鶴ヶ城の魅力増進 内容：若松城整備等基金を活用しながら、史跡の復元等、計画に沿った整備を推進する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
		事業費	894	20,894
		所要一般財源	894	894
		概算人件費	300	300
4	これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 二ノ丸芝生広場整備、テニスコート撤去 ・令和2年度 園路舗装（西出丸、梅坂から売店前） ・令和4年度 廊下橋健全度調査、鶴ヶ城公園事業特定計画調査、廊下橋塗装工事 着実に整備を推進し、本市観光のシンボルであり拠点としての役割を担う鶴ヶ城の魅力を高めてきたことにより、本市全体の観光入込は、令和3年の830千人から令和4年は1,460千人となるなど、その増加に寄与してきた。		
	事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、史跡若松城跡総合整備計画に基づいた整備を推進するとともに、鶴ヶ城の保全と保存、磨き上げにより、観光資源として有効活用し、観光誘客を図っていく。 ・史跡内の公園機能の保全整備については、令和4年度に実施した特定計画調査結果を踏まえ、都市公園整備事業と連携しながら、令和6年度に実施設計を策定し、令和7年度以降、園内の雨水排水路の改修や園路の修繕などを順次進めていく。 		
事業名	観光施設指定管理運営事業（観光施設事業特別会計）		法定／自主	自主
担当部・課	観光商工部・観光課		次年度方針	継続
概要 (目的と内容)	目的：本市の主要な観光施設である若松城天守閣、会津若松市麟閣、会津若松市営駐車場の適切な運営管理 内容：指定管理者による管理運営の実施	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
		事業費	173,000	173,000
		所要一般財源	173,000	173,000
		概算人件費	1,124	1,124
5	これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年～ 指定管理者制度導入 ・現在第5期目（令和4年4月～令和8年3月） 指定管理者（一財）会津若松観光ビューロー ・本市観光のシンボルであり拠点としての役割を担う鶴ヶ城各施設の適切な管理運営により、令和4年度の天守閣入場者数は337千人となり、長寿命化工事に伴う閉館期間があった中で令和3年度の275千人から大きく伸ばすなど、本市全体の観光入込の回復に大きく寄与した。 		
	事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も観光施設の適切な管理運営を継続していくとともに、リニューアルした天守閣をはじめ、施設を効果的に活用し、県立博物館とも連携を強化しながら、鶴ヶ城を本市観光の基点として、まちなかへの誘導、会津地域への効果的な観光誘客を図っていく。 		

6	事業名	若松城天守閣等管理運営事業（観光施設事業特別会計）	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：若松城整備等基金などの財源を活用し、史跡若松城跡内の観光施設（天守閣、麟閣等）の長寿命化等を図る。 内容：観光施設の長寿命化に向けた計画的な整備やき損箇所等の修繕、また、内部展示更新による魅力向上を図っていく。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	21,237	41,874
			所要一般財源	11,407	10,717
概算人件費			1,124	1,124	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度 若松城天守閣長寿命化に係る実施計画策定、外部階段鉄骨工事 ・令和4年度 若松城天守閣長寿命化工事（耐震化）、天守閣展示リニューアル ・令和5年度 史跡内施設長寿命化計画策定 ・若松城天守閣をはじめ施設の長寿命化に向けた改修等を進め、本市観光のシンボルとしての魅力向上を図ったことにより、リニューアルオープン後の令和5年6月の天守閣の入込状況は、コロナ禍前の令和元年同月比で102%の入込となり、観光の再始動に寄与している。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・若松城天守閣及び麟閣等の計画的な維持、修繕や内部展示の更新等により、観光施設としてふさわしい景観や安全性の確保、さらには、内部展示等の魅力を持続させる必要がある。 ・天守閣をはじめインバウンド向けの外国語表記が課題となっており、これらの充実を図っていく ・令和6年度以降は、長寿命化計画に基づき、優先順位をつけながら順次改修等を進めていく。 				
7	事業名	史跡若松城跡ライトアップ事業（観光施設事業特別会計）	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：観桜期における史跡の魅力創出により、冬季の閑散期からの入込数の早期回復を図る。 内容：桜の開花時期における、史跡若松城跡内の石垣や樹木、濠などのライトアップの実施。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	12,322	16,018
			所要一般財源	12,322	16,018
概算人件費			188	188	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成7年度から継続して事業実施。 ・令和元年度に史跡若松城跡ライトアップ（春）のPR動画を作成、公開。 ・令和4年度は4月～6月まで、観桜期、葉桜期、新緑期の状況にあわせたライトアップを実施 ・令和5年度の実施期間中の夜間来場者は約3万人となり、コロナ禍前と同水準となるなど、観光入込の早期回復に寄与した。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・期間中における鶴ヶ城公園内への来場者数が近年伸び悩んでいることから、宿泊施設や飲食店と連携しながら、夜間の魅力向上に努め、効果的なPRを行うなど、来場者数の増加を図っていく。 				
8	事業名	鶴ヶ城体験事業（観光施設事業特別会計）	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：子どもたちが天守閣をはじめとした史跡に直接触れる機会を創出し、子どもたちの郷土愛の醸成と鶴ヶ城の魅力の再発見を目指す。 内容：鶴ヶ城における各種体験事業を開催。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	800	800
			所要一般財源	800	800
概算人件費			225	225	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度～ 子ども向け体験事業「鶴ヶ城ぐるっと探検隊」の開催 ・令和2年度 鶴ヶ城公園の歴史を題材としたクイズスタンプラリーを実施。 ・令和3年度及び令和4年度 鶴ヶ城の歴史学習ツアーの実施。子どもたちが体験し、実際に取材した記事を編集しパンフレットを作成。魅力の再発見につながるのと同時に、作成した「鶴ヶ城のみりよく発見マップ建造物編・人物編」を教育旅行誘致に活用し、学校・旅行エージェント等からも高評価を得るなど、来訪校数の拡大にもつながった。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業への参加者数が限定的となっていることから、人数の増加を目指し、市民がより鶴ヶ城への興味関心を持ち、再発見につながるような企画内容を検討していく。 				

9	事業名	鶴ヶ城誘客促進事業（観光施設事業特別会計）	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：本市観光のシンボルである鶴ヶ城の歴史的資源を活用し、鶴ヶ城を基点とした観光誘客促進を図る。 内容：お濠におけるボート体験事業の実施。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	5,651	5,651
			所要一般財源	5,651	5,651
概算人件費			375	375	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度 お濠でボート体験、高所作業車からの高所観覧体験事業、南走長屋等での光のアートプロジェクトを実施 ・令和5年度 お濠でボート体験、光のアートプロジェクトを実施。 ・令和4年度は約7,000人のボート利用者、約40,000人の光のアート入場者があり、ポストコロナにおける観光産業の早期回復とともに、新たなコンテンツとして再来訪の動機付けにもなるなど、市内全体の観光入込の早期回復に大きく寄与した。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業は、コロナ禍からの観光産業の早期回復を図ることを目的に開始したが、史跡内の資源を有効活用した、鶴ヶ城における新たなコンテンツとして定着し、本市への再来訪の動機付けとなるなど、市内全体の観光入込に大きく寄与していることから、引き続き事業を展開していく。特に、閑散期においても実施日を設定するなど、実施期間の拡充を図る。 				
10	事業名	近世会津と南蛮文化事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：近世会津における城下町の形成や殖産興業など、蒲生氏郷公がもたらした会津の歴史的源流や西洋文化の流入によって花開いた南蛮文化の特徴について、市民や観光客に広く伝え、観光振興を図る。 内容：企画展等の開催と市民意識の醸成。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	0	0
			所要一般財源	0	0
概算人件費			188	188	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 資料調査・借用協議 ・平成30年度 実行委員会設立 ・令和元年度 資料借用の協議 ・令和2年度 企画展の基本計画の素案づくりに向けた時代背景及びテーマ設定にかかる調査 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の着手からは一定の期間が経過しており、実施における地元観光関係者との合意形成や事業の再構築など、誘客効果も含めた検証を行っていく。 				
11	事業名	冬季観光誘客促進事業（観光施設事業特別会計）	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	終了	
	概要 (目的と内容)	目的：観光入込が最も減少する冬季に賑わいを創出し誘客に努めることにより、観光需要の平準化と、宿泊を伴う滞在型観光を推進する。 内容：雪を活かした夜間イベントの開催等の誘客事業の実施。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	0	0
			所要一般財源	0	0
概算人件費			0	0	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 「アイヅテラス」 観客数約3,900人 ・令和2年度 「アイヅテラス」 観客数約4,600人 ・令和3年度 「アイヅテラス」 開催中止 ・令和4年度 「アイヅテラス」 開催休止 実行委員会解散 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・本実行委員会は解散したが、閑散期である冬季の誘客は重要であると認識していることから、DMOの事業を中心に冬季滞在型観光を推進し、観光需要の平準化に取り組む。 				

12	事業名	温泉地域活性化推進事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：東山・芦ノ牧温泉街の活性化を図り、滞在型観光の推進と市内における観光消費額の向上に寄与する。 内容：両温泉観光協会が主体として取り組む、誘客宣伝・イベント・温泉街環境整備などの事業への補助金の交付。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	12,000	12,000
			所要一般財源	12,000	12,000
概算人件費			1,049	1,049	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が温泉街をそぞろ歩きできるような魅力創出や観光誘客に向けた各種取組を支援してきた。 平成24年度からは、通常分の7,000千円に加え、東日本大震災及び原発事故の風評被害からの復興対策として震災復興特別分5,000千円を補助し、温泉街のさらなる活性化に向けた取組を支援してきた。 温泉街のライトアップやスノーパークをはじめとした各種事業の実施を支援したことにより、令和4年度の温泉街入込数は570千人となるなど、412千人であった令和3年度からの大きな回復につながった。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 温泉地域の活性化に向け、温泉街の魅力向上を図っていく必要があることから、今後も温泉街が全体で取り組むイベント等の開催や温泉街の環境整備などの事業について支援していく。特に、ポストコロナにおける旅行動向の変化への対応や、人口減少等に伴う人手不足の解消に向け、観光産業の生産性を向上させる取組が必要であることから、温泉街全体で取り組む閑散期における誘客対策等を支援していく。 				
13	事業名	ONSEN・ガストロノミーウォーク事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：イベントを通し両温泉のさらなる魅力向上と活性化及び市内観光への波及を図る。 内容：温泉・食・自然等の本市の魅力を手歩で巡りながら体験する「ONSEN・ガストロノミーウォーク」イベントの開催。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	2,601	2,601
			所要一般財源	2,601	2,601
概算人件費			1,199	1,199	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から事業開始。 令和3年度 7月に東山温泉周辺で開催 令和4年度 9月に芦ノ牧温泉周辺で開催 令和5年度 10月に東山温泉周辺で開催 令和3年度は165名、令和4年度は120名の参加があり、うち4割は本市への初来訪者であったことから、来訪の動機付けとなるとともに、宿泊需要の創出につながった。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> これまでのルート設定においては、温泉エリアに立ち寄るスポットが少なく、温泉街自体の魅力伝える機会を逸していることが課題となっており、一方で、令和4年度に策定された温泉地域景観創造ビジョンアクションプランの具現化しさらなる活性化を図っていく必要があることから、温泉エリアを拠点としたルート設定を行い、温泉街における景観や温泉施設、食などの魅力を提供することへ開催内容を変更していくことや、その組織体制を見直すなどの検討を進めていく。 				
14	事業名	会津十楽inサムライシティあいつ開催事業（観光施設事業特別会計）	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：蒲生氏郷公が制定した「十楽」を現在に復活させ、歴史的な背景を含めた新たな観光資源とし、観光誘客を促進する。 内容：鶴ヶ城を会場とし、サムライシティとしての演出をイメージしながら、物販販売やイベントを実施する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	4,000	4,000
			所要一般財源	4,000	4,000
概算人件費			600	600	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度～ 毎年開催 (令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、蒲生氏郷入府430年を記念し、小冊子を作成し、市内中学校や観光施設に配布。) 令和5年度は、武家文化を体感できる鷹匠体験事業を実施。当日は多くの来場者で賑わい、満足度の高いイベントとなるなど、旅の目的となる新たなサムライコンテンツを創出することができた。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 幕末だけではなく新たな切り口による歴史観光として事業実施してきたが、演出が限定的となっていることが課題となっていたことから、今回の鷹匠体験を好事例として、さらなる誘客に向け、新たなサムライコンテンツを創出し、サムライシティの具現化を図っていく。 				

15	事業名	湊四浜環境整備事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：崎川浜における湖水浴客の誘客と、湊四浜への年間を通じた観光誘客にかかる、浜の美化安全対策等の受入体制の整備を行う。 内容：崎川浜における監視員等の配置と、仮設トイレや仮設電灯設備を設置、年間を通しての湊四浜の便益施設の維持管理等。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	8,789	16,993
			所要一般財源	8,789	16,993
概算人件費			1,124	1,124	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・湊四浜への常設トイレの設置及び維持管理 ・常設脱衣所（小石ヶ浜、中田浜）の設置及び維持管理 ・崎川浜公衆便所浄化槽の維持管理 ・浜の清掃（崎川浜、田面浜） ・崎川浜の防犯維持管理、崎川浜遊泳場の監視等 ・これまでの環境整備や、安全性・湖水浴の魅力などの情報発信により、来場者数は、令和3年度の約15,000人から令和4年度は約20,000人となるなど、旅行動態の変化に対応し、若年層を中心とした新たな観光客の獲得に寄与してきた。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間利用者のための仮設電灯設備の設置に毎年1,000千円以上の経費がかかっており、コスト削減を図るため電灯設備の常設化を検討していく。 ・崎川浜防風林内には枯れ枝が多く、事故の危険性もあることから、早急に整備を進めていく。 ・便益施設や浜の清掃などの環境整備にあたっては、地元住民の協力を得て、今後とも連携を密にしながら推進していく。 ・遊泳場の安全利用や湖畔利用ルールについて、関係機関と連携しながら周知徹底を強化していく。 				
16	事業名	まちなか観光推進事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部・観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的：まちなみの整備やまちの活性化による、まちなかへの観光誘客促進と滞留性の向上を図る。 内容：まちなかの店舗等が行う景観整備への支援と七日町市民広場等の維持管理。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	2,710	1,974
			所要一般財源	2,710	1,974
概算人件費			1,798	1,798	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか観光推進事業補助金制度による、まちなみ整備団体が実施するのれんの設置や看板設置、パンフレット作成等に関する支援 ・七日町市民広場及び中町まちなか市民広場の維持管理 ・七日町駅舎内アンテナショップ「駅カフェ」の運営支援 ・令和4年度までに、のれん55件、看板82件、パンフレット作成28件など、まちなか整備団体が取り組む事業を支援してきたことにより、まちなみの整備がなされ、市内における周遊性の向上や滞在時間の長期化に寄与してきた。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在型観光を推進し、観光消費額の向上を図るためには、まちなかの歴史や文化、景観、食、イベントなどの魅力を結びつけ、周遊性をさらに高めていくことが必要であり、これまで以上にまちなか観光の担う役割は大きくなっていることから、これまでに整備してきた拠点の有効活用とともに機能強化を図りながら、今後のまちなか観光を計画的かつ効果的に推進していくことについて、地域関係者をはじめ民間事業者等と新たな体制を組織し検討を進めていく。 				
17	事業名	ホテル祭り実行委員会負担金	法定／自主	自主	
	担当部・課	企画政策部・北会津支所 まちづくり推進課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	北会津地域のシンボルであるゲンジボタルの観賞会を呼び物に、ホテル市や地域の住民や小学校・幼保園による舞台芸能発表、手づくりの民話劇などの各種イベントを実施し、地域の賑わいの創出を目的に活動する「ホテル祭り実行委員会」に対し、負担金を支出する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	300	300
			所要一般財源	300	300
概算人件費			577	577	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<p>会津若松の知名度を活用し、北会津地域の独自性「ホテルの里北会津」をPRした。住民協賛金、企業協賛金等のしくみを立ち上げた、また、ホテル市の出店料の見直しなど、自主財源の確保に努めた。住民参加を通して地域の活性化を図りながら、実行委員会が地域に根ざした組織となるよう区長会やJA地域団体の加入を図った。</p> <p>令和5年度は、地元中学生による祭り会場の清掃ボランティアを実施するなど、住民協働の取組を進めた。</p>				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<p>地域の活性化を図るため、住民協働と事業内容見直しを更に進めながら、事業内容の更なる充実に向けて取り組んでいく必要がある。</p> <p>地域の自然資源であるホテルをPRすることで、水環境の美化・保全に対する意識高揚を図る。イベント等に、地場産品を景品として提供するなど、「ホテルの里北会津」の魅力を発信、住民との協働の取組を更に進める。</p> <p>今後も円滑な事業継続のため、協賛金等、さらなる自主財源の確保を検討する。</p>				

18	事業名	ふるさとイベント事業補助金	法定／自主	自主	
	担当部・課	企画政策部・河東支所まちづくり推進課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	河東地域に伝わる皆鶴姫伝説を継承する催しとして、皆鶴姫墓前祭、地元中学生が扮する義経・皆鶴姫発表会、芸能発表、花火大会等を行うかわひがし皆鶴姫まつり実行委員会に対し、補助金を交付する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	1,700	1,700
所要一般財源			0	1,104	
概算人件費			375	375	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<p>【1】平成19年度に、合併前からの地域のまつりを「皆鶴まつり」として一本化。平成22年度には会場を「広田西公園」、名称も「かわひがし皆鶴まつり」に変更。</p> <p>【2】皆鶴姫にまつわるまつりとして、平成30年度に「かわひがし皆鶴姫まつり」として名称変更。</p> <p>【3】令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染防止のため皆鶴姫墓前祭のみ実施。</p> <p>【4】令和4年度は、皆鶴姫墓前祭・花火打ち上げのみとし、ライブ配信を実施。</p>				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<p>・河東地域の「皆鶴姫」伝説を継承する催しであり、多くの市民が参加し賑わいづくりやふるさとの良さを再認識できる事業として地域に定着している。あいづ商工会を事務局とする実行委員会において適宜内容の見直しを行っており、市からも様々な助言を行いながら、継続実施に向けて支援を行っていく。</p> <p>・河東地域ふるさと創生基金払底により、本補助金へは令和6年度までの充当となっていることから、事業継続に向け、今後の財源について検討していく。</p>				
19	事業名	魅力ある町づくり推進事業補助金	法定／自主	自主	
	担当部・課	企画政策部・河東支所まちづくり推進課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	町の中心商店街に位置する広田駅周辺の地域活性化、青少年健全育成の一環としてのライトアップ・イルミネーション事業と、地元の「市」として正月の縁起物を購入できる八日市事業を主催するあいづ商工会へ補助金を交付し、河東地区の地域活性化への取組を支援する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	300	300
所要一般財源			300	300	
概算人件費			225	225	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<p>【1】平成11年12月 広田駅前ライトアップ・イルミネーション実施</p> <p>【2】平成18年～ 広田駅前ライトアップ、八日市</p> <p>【3】令和2・3年度 新型コロナウイルス感染拡大防止のためライトアップ・イルミネーションのみ実施。</p> <p>【4】令和4年度 平常開催</p>				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<p>・「広田駅前ライトアップ・イルミネーション」は地域の賑わいを創出する冬の恒例イベントとして、また、期間中に併せて開催している「かわひがし八日市」は正月の縁起物を地元で手軽に購入できる「市」として、それぞれ地元に着していることから、地域活性化のため今後も継続して支援をしていく。</p>				

施策2 誘客宣伝の推進と受入体制の整備					
1	事業名	(一財)会津若松観光ビューロー補助金	法定/自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	本市観光地づくりの舵取り役である(一財)会津若松観光ビューローが、市観光振興計画に基づき実施する各種事業に対し、補助金を交付し支援することにより、観光需要の平準化と観光消費額の向上を図る。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	58,897	66,737
			所要一般財源	58,897	66,737
概算人件費			2,996	3,145	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<p>・DMOである会津若松観光ビューローは、本市観光振興計画に基づき様々な事業に取り組んでいるが、特に、各種データ分析を活用した情報発信により令和4年度のウェブページ閲覧数が、前年度から約20万件増加したことからも効果的なプロモーションが図られており、本市観光入込の早期回復に寄与した。</p> <p>・また、令和4年度は、前年度3本にとどまった着地型旅行商品を30本造成しており、今後、閑散期に誘客できる商品を造成する環境を整えた。</p>				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<p>・ポストコロナにおいて旅行動向が大きく変化したが、受入側でも人手不足が深刻化しており、現体制においては、数よりも質を高め満足度と観光消費額を向上させる取組や、閑散期の誘客により観光需要を平準化する取組が重要となっている。市は、こうした現状を踏まえて見直した市観光振興計画に基づき、会津若松観光ビューローが実施する各種事業、特に、インバウンド受入体制の整備や教育旅行誘致、顧客管理などの事業を支援していくとともに新たな冬季の誘客事業について検討していく。</p>				
2	事業名	教育旅行誘致推進事業	法定/自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	本市の観光需要の平準化を図るため、教育旅行の誘致を推進する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	13,674	13,877
			所要一般財源	309	512
概算人件費			2,696	2,696	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<p>・教育旅行の誘致は、観光需要の平準化につながることから、各都道府県エリアの学校長会へ継続的に参加し、本市の新たな取組や、充実した受入体制をPRするなど、再来訪に向けた活動を行った。また、旅行エージェント等に対しても、本市の優位性を理解してもらうために積極的な誘致活動を行ってきたところ、震災後100校まで減少した県外来訪校数が、令和4年度には908校となり、過去最多を更新した。</p>				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<p>・感染症拡大前から本市へ来訪していた宮城県や新潟県の来訪校からは、歴史学習だけでなく新たな学習コンテンツを求める声があり、また、感染症拡大後に本市へ行き先を変更した栃木県、茨城県の来訪校は、訪問先を感染症拡大前の行き先に戻す動きがある。このことから、新たな体験型コンテンツの創出や既存コンテンツの磨き上げにより、多様な学びの場を提供するとともに、さらに積極的な誘致活動を実施していく。</p>				
3	事業名	市民総ガイド運動事業	法定/自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	市民一人ひとりが観光ガイドとしておもてなしの心で迎えるという意識の高揚等を図ること、及び実際に案内のできる観光情報の習得を図ること等を目的として、各種講座の開催等を行う。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	250	250
			所要一般財源	250	250
概算人件費			899	899	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<p>・昭和49年に市民総ガイド週間に取り組んで以降、継続して市民参加による観光客の受入体制づくりを行ってきた。</p> <p>・令和4年度の観光ガイド講座では、歴史や文化の知識だけでなく、最新の観光情報なども加えた講座内容とするなど、事業内容を充実させたことにより、一般市民だけでなく観光業に携わる方も多く参加するなど、幅広い市民の方々の参加につながった。</p>				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<p>・観光産業は人手不足をはじめ業界全体として生産性が低いことが課題となっており、課題解決に向け、本市における周遊性を高め滞在時間を延ばすとともに、観光消費額を増加させていくことが必要であることから、本市観光の質を高めるとともに、旅の満足度を向上させていくため、今後も引き続き、市民一人ひとりが的確な観光案内のできる環境づくりと、温かく迎え入れるおもてなしの意識の醸成を図っていく。</p>				

4	事業名	便益施設整備事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	観光客が、市内観光施設を快適に使用できるよう駐車場やトイレ等を整備し、利用者の満足度の向上とともに観光入込の増加に寄与する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	9,484	9,484
			所要一般財源	9,484	9,484
概算人件費			1,124	1,124	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯盛山下駐車場、飯盛山公衆便所及び観光案内所の運営管理、東山及び芦ノ牧地域の公衆トイレ運営管理、中野竹子殉節地碑、新選組殉難地への仮設トイレ設置及び運営管理など、来訪者の多い観光地周辺に便益施設等を整備し、来訪者の満足度を高めてきた。 ・これまでに周辺環境の整備を進めてきたことにより、年々苦情等は減少している状況にある。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレ等の便益施設については、設置から年数が経過し劣化が見られる施設もあることから、順次更新等を行いながら今後も来訪者へのサービスの提供を継続していく。 				
5	事業名	観光管理運営費事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	本市で快適に観光を楽しめるよう駐車場やトイレなどの便益施設の充実に努めるとともに、道路案内・観光案内標識等の維持管理を通し観光客の利便性向上を図る。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	2,516	3,116
			所要一般財源	2,516	3,116
概算人件費			749	749	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・石部桜の観桜期に、案内看板や感染症対策看板、仮設トイレの設置、警備員の配置、臨時駐車場の確保等を継続して行い、観光客の利便性と観光地としての魅力向上を図ってきた。 ・これまでに周辺環境の整備を進めてきたことにより、年々苦情等は減少している状況にある。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路案内・観光案内標識等の定期的な状況確認に加え、設置から年数が経過し、劣化が見られる施設もあることから、順次更新等を行いながら、今後も来訪者へのサービスの提供を継続していく。また、インバウンドへの対応など利用者のニーズが多様化していることから、案内標記に二次元バーコードを記載するなどして効果的な情報発信に取り組んでいく。 				
6	事業名	フィルムコミッション事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	映画やテレビ番組等の撮影を積極的に誘致し、その作品を通し、ロケ地として、本市の知名度向上と魅力の発信することで観光誘客を図るため、映像作品の撮影の支援や誘致を推進する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	891	815
			所要一般財源	891	815
概算人件費			5,392	5,392	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の大河ドラマ「八重の桜」の撮影支援等に代表されるように、撮影許可・届出等の手続きやロケに関する相談・斡旋、エキストラの募集支援を行い、映画やテレビ等を通じて本市が有する観光資源や魅力を発信・紹介してきた。 ・令和4年度は69件の撮影支援を行い、映像作品の放映等を通じて、幅広い本市の魅力の発信につながった。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは撮影の誘致、現地での撮影協力や支援を中心に行い、放映等を通じて、本市の魅力の幅広い情報発信により観光誘客につなげてきたが、今後は、ロケ資源を活かし、ロケ地での特別な体験を盛り込んだ旅行商品を造成するなど、ロケツーリズムを推進し観光誘客を図っていく。 				

7	事業名	会津若松観光ルネッサンス協議会負担金	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	観光振興や地域経済の活性化について行政や観光団体等に提言を行うことを目的に、先駆的なテーマや諸課題等を調査・研究している。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	300	300
			所要一般財源	300	300
概算人件費			903	903	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度から「会津のキリシタン文化」の調査研究に取り組み、令和2年度に調査研究報告書を作成し、新たな観光素材としての活用を関係団体に提言した。 令和4年度は、提言内容をもとに、大手旅行代理店が旅行商品を造成した。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に旅行動態が変化し、旅行ニーズも多様化したことから、こうした環境変化を踏まえた新たな観光振興策の提言に向け、引き続き調査・研究に取り組む。 				
8	事業名	ワーケーション推進事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部 観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	新しい働き方である「ワーケーション」等の需要の高まりを市場機会として捉え、本市における「ワーケーション」及び「プレジャー」を推進し、平日や閑散期の需要を掘り起こし、観光需要の平準化を図るとともに、滞在期間の拡大による観光消費額の向上を図る。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	6,955	5,000
			所要一般財源	6,955	5,000
概算人件費			1,354	1,354	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の関係者とともに「会津若松市ワーケーション推進協議会」を設立。企業ニーズの調査やモニターツアーを実施し、それらの結果をもとに、受入体制の整備に向けた「地域勉強会」等を開催。本市の強みを活かせるターゲットの明確化や推進するワーケーションタイプなど、本市の推進方針が定まった。 令和5年度は、AiCT入居企業が本市において5日間18名による研修プログラムを実施した。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 本事業のターゲットであるAiCTコンソーシアムやANF等に対する訴求力のあるプロモーションや、本事業の自走化に向けた推進体制が必要であることから、今後は、協議会において地域の関係者とともに、実施したモデル事業の検証をはじめ、検討を重ね、連携を強化しながら、ワーケーション実例を活用した効果的なプロモーションや受入体制の整備を進め、平日や閑散期の需要を取り込むとともに、滞在期間の延長による観光消費額の向上を図っていく。 				
9	事業名	スマートシティ会津若松推進事業（観光分野）	法定／自主	自主	
	担当部・課	企画政策部・スマートシティ推進室	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	近年、視察者が多く訪れる「スマートシティ会津若松」を産業観光のコンテンツと捉え、視察窓口の調整や宿泊・観光情報を一体的に提供する体制の構築とデジタルツールの提供を支援する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	0	0
			所要一般財源	0	0
概算人件費			1,872	1,872	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> 本事業については、令和4年度において、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し、AiCTコンソーシアムが取り組む観光分野の取組を支援することで、「スマートシティ会津若松」の視察受入れ及び宿泊・観光情報提供の一元化とスマートフォンアプリの提供が開始された。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、視察者のみならず企業向けの研修サービスの提供などにより対象を拡大していくとともに、「スマートシティ会津若松」で取り組む分野や構築したデジタルサービスをパッケージ化し体験できるツアーを構築することで、視察者だけでなく、教育旅行や一般観光のコンテンツに広がる取組を目指す。 				

施策3 広域観光・インバウンドの推進

1	事業名	極上の会津プロジェクト協議会事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:会津17市町村等の連携による広域観光の推進 内容:地域の特性を活かした受入体制の整備やプロモーション等の充実強化を図りながら、回遊性のある滞在型観光の推進を行う。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	5,680	5,680
			所要一般財源	5,680	5,680
概算人件費			27,696	27,696	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に協議会設立、28年度に「会津の三十三観音めぐり」が日本遺産に認定。 案内板の設置や日本遺産ガイドの育成など、日本遺産めぐりの受入体制整備や周遊型観光の促進に向け、17市町村ごとに異なるデザインの日本遺産カードの配布等を展開。 日本遺産カード事業などより、エリア内を周遊する観光客数の増加に寄与した。(カードの配布実績:令和3年度:13,299枚、令和4年度:13,981枚(+682)) 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 日本遺産については、来訪者が増加しているものの高齢者層が中心であることから、令和6年の日本遺産サミットの本市開催を契機に、成長率が高く消費意欲が旺盛な20~30代女性層をメインターゲットとし、構成文化財と地域の魅力あるコンテンツを組み合わせたテーマ性のある周遊プランを造成し、滞在型観光を推進していく。 あわせて、日本遺産ガイドやインバウンドガイドを含む会津地域の観光ガイドを活用し、満足度の高いサービス提供体制を構築することで、観光消費額の向上に取り組み、滞在型観光の促進を図っていく。 				
2	事業名	国際観光推進事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:観光需要の平準化を図るため、本市のターゲット国である台湾・タイ・欧米地域に向け、インバウンド誘客を進める。 内容:海外でのプロモーションや旅行会社や企業等への情報発信を行うとともに、受入環境整備を推進する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	16,694	19,194
			所要一般財源	16,694	19,194
概算人件費			27,095	27,095	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> サムライシティ会津プロモーション事業:欧米地域で、鶴ヶ城など本市の「サムライ文化」を軸としたサムライアーティストによる新たなプロモーションを実施。 タイ誘客促進事業:ポストコロナを見据え、現地旅行会社や企業等への営業活動等を実施。令和4年7月には全国インバウンド客の5%が本市を来訪。 台湾誘客促進事業:新潟市及び佐渡市との連携により3市の共通資源や体験型コンテンツ等を組み合わせ新たな5本の広域観光ルート造成等を実施。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 急速に回復しているインバウンドにおいて、他地域との競争に勝ち抜くために、タイ、台湾、欧米などターゲット国ごとのニーズに応じて、サムライ・茶道文化など本市の優位性を活かした冬季誘客プロモーションを継続して行うことで、本市の知名度上昇と観光需要の平準化を図っていく。 あわせて、ポータルサイトのリニューアルを行うとともに、多言語ガイドの活用や、東京等から本市までの交通アクセスや市内の二次交通案内等の動画配信を新たに実施し、周遊型観光を促進することで、観光消費額の向上を図っていく。 				
3	事業名	会津カード運営協議会事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:会津10市町村、交通事業者等の連携による広域観光の推進。 内容:「会津ぐるっとカード」の発行・運営を通して、該当エリア内の公共交通機関の2日間乗り放題サービスを提供する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	120	120
			所要一般財源	120	120
概算人件費			1,798	1,798	
これまでの取組状況 (主な取組と成果)	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年度、会津10市町村と地域内の鉄道及び路線バス事業者等と協議会を設立、会津カードの販売を開始。 令和3年、国内におけるオンラインでの旅行商品予約が7割に達していることを踏まえ、JR東日本等と連携し、デジタル版会津ぐるっとカードの発行を開始。 販売実績(うちデジタル版):令和3年度:2,117枚(65)、令和4年度:2,410枚(172) 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> 新たに利用促進検討会を開催し、利用動向や二次交通の整備状況等をアンケート等で把握し、より利便性の高い移動サービスの提供を検討するほか、デジタル版カードについて、引き続き関係機関と連携して利用促進を図っていく。 参加交通事業者の撤退等に応じた新たな運営体制を遅滞なく講じることで、サービス提供体制の維持を図っていく。 				

4	事業名	福島県観光復興推進委員会負担金	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:全県的な観光振興を目的として、県が本推進委員会を設立(事務局:観光交流課)。 内容:上記目的を達成するため、県内各市町村は観光客入込数等で算定された負担金を支出。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	307	307
			所要一般財源	307	307
概算人件費			189	189	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内3方部でそれぞれ推進組織が選定され、会津方部では「極上の会津プロジェクト協議会」が選定されており、例年600万円が協議会に支出されている。 ・推進委員会事業として、全県的な観光情報誌の発行やホームページの管理・運営などの誘客プロモーションを実施。 ・本市旅行情報等について、県等が運営する各種ポータルサイトやSNS、国内各地の情報窓口等を活用し、幅広いプロモーションを実施。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年9～11月のJR東日本による福島県重点販売期間中に全県的な観光キャンペーンを実施することにより、持続可能な観光推進体制づくりを行い、県全体の目標である入込数の「震災前水準回復」に繋げていく。 ・また、令和7年開催予定の福島DCに向け設立された検討部会に参加し、県内の観光素材の磨き上げや機運醸成に向けた全県的な検討を行う。 				
5	事業名	都市間連携推進事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:国内外からの広範囲な誘客促進を図るため、広域連携による誘客事業を実施する。 内容:新潟市や佐渡市など、本市とゆかりのある自治体と連携協定等を締結、お互いのコンテンツを組み合わせた周遊型観光の推進事業を実施する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	1,708	2,708
			所要一般財源	1,708	2,708
概算人件費			4,493	4,493	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市:コロナ禍により影響を受けた観光業の再始動に向け、連携協定の締結による広域観光の推進や共通ターゲットである関西方面に向けた共同プロモーション、台湾に向けた佐渡市を含めた三市連携誘客事業などを実施。 ・佐渡市:佐渡金山の世界遺産登録を見据え、国内外からの誘客促進のため、両地域を巡る3本の高付加価値モデルルートの造成や共同ポータルサイトの運営などを実施。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携による双方の強みや共通するコンテンツを組み合わせることで、新たな旅行商品の造成による持続可能な観光振興を推進する。 ・令和6年度の佐渡金山の世界遺産登録を見込み、富裕層向けのモデルルートの商品化を進めるとともに、令和7年度の大阪・関西万博開催を好機と捉え、関西方面からの誘客をさらに促進するなど、ターゲットを絞りこんだ広域観光誘客事業を行う。 				
6	事業名	磐越西線SL運行推進事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:SLの定期運行を通じた観光誘客や地域活性化を図る。 内容:沿線自治体等と協議会を構成し、各種おもてなし事業や利便性向上に向けた取組を行う。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	613	618
			所要一般財源	613	618
概算人件費			225	225	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・「磐越西線SL定期運行推進協議会」(新潟⇄会津若松間)及び「磐越西線SL等運行・活性化推進協議会」(郡山⇄喜多方(山都)間)に対して、負担金を支出し、各種おもてなし事業を実施するとともに、定期運行に向けた働きかけを実施。 SLばんえつ物語号運行実績(列車あたりの乗車数):R2:184人、R3:161人、R4:207人 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ・SLばんえつ物語号等の特別列車は、列車旅行の魅力を感じることができることから、沿線自治体と連携して、プロモーション事業等を実施する。 ・列車の魅力と併せて、沿線の食や温泉、絶景などのコンテンツを組み合わせる滞在中型観光につながる旅行商品を造成することで、観光消費額の向上を図っていく。 				

7	事業名	日光・会津観光軸活性化推進検討会事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:国内外からの広域的な観光誘客の促進、周遊型観光の推進を図る。 内容:会津・日光両地域沿線の市町村や鉄道会社等と連携し、各地域や沿線の魅力などを組み合わせた広域プロモーションを行う。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	100	100
			所要一般財源	100	100
概算人件費			226	226	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> 台湾・タイ旅行博への出展や、両国へのSNSを用いた情報発信、タイのメディア招聘事業を実施(R1、R2、国補助事業)。 アフターコロナを見据え、国補助事業を活用し、欧米豪FITの富裕層をターゲットとした広告の掲出やメディアの招請、セールスコールを実施(R3、国補助事業)。 東京メトロ日比谷線・半蔵門線直通車両及び東武各線の車両へ中吊り広告を2,300枚作成、掲出し、沿線の魅力を発信した。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> ポストコロナを見据え、ターゲット層の明確化と、ターゲット層に向けて訴求効果がある観光資源の共有化や磨き上げを行う。 本格的なインバウンドの回復を見据え、新潟～会津～日光～東京をつなぐ新たな広域観光ルートの造成を目指し、沿線自治体や鉄道会社等とコンテンツの掘り起こしや組合せ等を検討していく。 				
8	事業名	会津・置賜広域観光推進協議会事業	法定／自主	自主	
	担当部・課	観光商工部観光課	次年度方針	継続	
	概要 (目的と内容)	目的:米沢市・喜多方市・会津若松市の広域的な観光誘客を促進する。 内容:3市で会津・置賜広域観光推進協議会を運営し、共通のブランドコンセプトである「ラーメンと温泉」を活かした周遊事業を実施する。	財務内容 単位(千円)	令和5年度 (予算)	令和6年度 (見込み)
			事業費	500	500
			所要一般財源	500	500
概算人件費			300	300	
これまでの 取組状況 (主な取組と 成果)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度、両地域の誘客促進を図るため「会津・置賜広域観光推進協議会」設立。 首都圏に向け、「ラーメン湯治」を中心とした観光情報を発信。補助キャンペーン(宿泊費)を活用し地域への誘客を実施。 ラーメン店と日帰り温泉を巡る「ラーメン湯治」スタンプラリー事業を実施、観光案内所への設置やSNS等でのプロモーションを行い、3市間の周遊観光を促進。令和4年度のラリー応募者219名、ラリー参加による推定観光消費額は、約2,638千円を見込む。 				
事業の検証 (課題認識/ 今後の方針・ 改善点)	<ul style="list-style-type: none"> より参加しやすいイベントにするため、WEBアプリによるデジタルラリーに移行するとともに、参加者から要望が多かった参加店舗の拡大を図ることで、周遊性を高めた事業として推進していく。 ラーメンと温泉といった気軽に楽しめるコンテンツであることから、周遊に併せて両地域の様々な他のコンテンツを同時に楽しめるような仕掛けづくりを行い、閑散期における観光需要の創出を図る。 				